



# 極真への道

第6号～道場責任者特集～

国際空手道連盟 社団法人極真会館 愛媛県戸田道場 機関紙

All Japan Kyokushin Union



## 武術として使える空手

国際空手道連盟 社団法人極真会館 愛媛県戸田道場

師範 戸田美智男

我々の組織は3年前に、社団法人極真会館の一員としてスタートし、一昨年に全日本フルコンタクト空手道連盟（JFKO）の発足と同時に加盟するなど、多くの会派、組織と親しく交流を行い、年間20近い各種大会に選手を出場させ、ある程度の成績を収めることができました。

今年は更に他流派との交流が広がり、既に大会出場の依頼は昨年を上回っています。今後の選手強化が緊急の課題であり、年に何度も合同強化稽古を行ったり、大会で優秀な成績を収める選手を支援する強化選手指定制度を作ったりと懸命の努力をしているところです。

1961年に極真会館の大山倍達総裁が創ったフルコンタクト空手は燎原の炎のように全国に広がり、総裁が亡くなった後は会派が大幅に増え、むしろ大会の数は増加しており非常に充実してきました。

こういった現状を見るに、私はフルコンタクトの大会が盛んなことは喜ばしい反面、競技化が進むあまり、本質である武道性、実戦性が失われてしまうことを危惧しています。

私としては、この競技方法が事故防止や判定の明確化のためであり、全く否定はしておらず、むしろ勝利を目指して努力している選手達に厳しく指導しています。

とは言え、ルール上の技が制限されてきた試合では、使える技はごく僅かなものに限られてしまい、本質である武道性が失われてしまうのではないかと心配しているのです。

私は40年余り前の大学空手部時代から数年間、当時極真会館愛媛支部長であった芦原英幸先生（後の芦原会館館長）から直接、掴み、掛け、投げといった技を徹底して教えていただき、組手の際には突き、蹴り以外にこれらの技を駆使して闘いました。

お陰で、警察官時代の長い刑事時代に、ナイフ等凶器を持った凶悪犯に襲われた際に、芦原先生に教わった投げや極めて制圧したことが数多くありました。

まさしく極真空手の技のおかげで命が助かったのです。

また、それ以前の高校時代は剛柔流空手を修行し、闘うという武術性の他、三戦の型を基本として、呼吸法により気血を丹田に集め自らの能力や生命力を高めることを修行し、空手が健康にも資する護身養生の武道だということも学びました。

長年、投げ等の技を含んだ本来の極真空手を、警察官に自らと市民の命を守るために指導してきたわけですが、今後は大会向けの稽古方法と併せて、呼吸法や型の分解稽古、あるいは武道的な側面がある、掴み、投げ、掛けの技を含め、実戦で使える空手の深い部分も道場生と共に修行していきたいと考えています。

皆さま方のご支援をよろしくお願い致します。

## 2月昇級審査

2月22日（日）坊ちゃん球場スポーツフロアにて2月昇級審査が行われました。

一般部18人、少年部43人の合計61人の受審者があり、白帯の12人は初受審に緊張した様子でした。

審査は基本（手技）基本（足技）移動（手技）移動（足技）、型、体力審査（柔軟）体力審査（腕立て）組手の8項目において採点され、最高点が5点、普通点が3点、最低点が1点とし、それに礼節、気合と出席率を勘案し合否が判定されますが、道場責任者の先生に日頃の稽古の様子も聞いて最終決定されます。

受審者は全員懸命に技を行い2週間後に結果が発表されました。



### 《審査結果》

◆一般部 1級 菊川豊（波方）岡山裕成（波方）宮園圭人（本部）鳥谷伸（本部） 2級 藤原弘之（川東）白石一樹（波方）  
3級 濱井勇志（川東） 4級 橋田虎之介（常盤）7級 藤田雄大（川東）進藤大（川東）相原ひかり（壬生川）右近勝夫（本部）伊藤友紀子（本部）宮田直史（本部） 9級 岸本大輔（波方）高橋誠一郎（波方）

◆少年部 2級 高瀬晴（壬生川）近藤さやの（本部） 3級 松井弥陸（常盤）山下凌（常盤）水戸川琉希（波方）久保晴輝（大洲）福井天翔（大洲） 4級 菊川真莉紗（波方）山岡竜斗（大洲）久保幸輝（大洲）神原僚太（常盤）5級 松井瞭論（波方）渡辺晶（波方）日野洸誠（大洲）山本珠莉也（本部）藤本一輝（川東）松井瞭誠（常盤） 6級 高瀬快（壬生川）鏡原琢矢（常盤）水戸川玲斗（波方）富岡優斗（本部）宇高悠斗（本部）西村朔（大洲）7級 池田翔真（常盤）垣本啓太（波方）壺内楓太（波方）渡部輝良々（波方）藤岡亨也（本部）新田恭一郎（本部） 8級 神原優花（常盤）中西健（常盤）越智和（常盤）黒田憲太郎（味酒） 9級 秦玲司（川東）10級 秦友輝（川東）越智龍（川東）高橋光輝（壬生川）小澤叶夢（壬生川）半川菜々美（壬生川）林修作（本部）伊東千晃（味酒）

## 大洲少年大会観戦記

愛媛県警極真空手部 東 元（ひがし はじめ）

今年3月8日（日）に愛媛県警極真空手部の運営により「第17回大洲少年空手道大会」が開催されました。

青少年健全育成を大会開催の意義として掲げたこの大会は、戸田師範が大洲警察署の生活安全課長時代の平成10年に開始して以降、早春の小京都、大洲の地において歴史を重ねてきました。

多数の警察官が運営の中心となる全国的にも珍しい大会ですが、今回は初出場の正道会館、道真会館を初め戸田道場以外に11の会派の小、中学生183人が出場しました。



今や大洲における空手道の聖地とも言える大洲市総合体育館内は、盆地ならではの独特の寒気が広がる中、大会を成功させようとするスタッフの熱気と、出場選手の緊張した面持ちが相まって徐々にムードが高まってきていました。

勇壮な開会太鼓の後、地元の鈴木典夫大洲警察署長、山崎正史大会会長の来賓挨拶の後、犯罪被害者支援金を県警極真空手部の橋本司部長が贈呈し、いよいよ試合が開始されました。

他流派が激突するオープントーナメント特有の一種独特の緊張感が選手を支配する中、力を出し切って勝ち上がる者、実力では上回ると見られていながらも、想定外の試合展開から苦戦を強いられ、再延長の末、体重判定により敗れ去る者、様々なドラマが繰り広げられ、勝者の清々しい「押忍」の勝ち名乗りと、敗者の涙が美しいコントラストを描き出します。

大会はフィナーレを迎え、戸田道場からは参加会派中で最多の10名の入賞者を出し、大会主催者として面目を何とか維持しました。また、今大会で最も優勝者を輩出した極真会館桑島道場は、全11階級中5階級を制覇し、その強さをアピールしました。

かくして今年度も、空手道を懸命に稽古する子供達と、その保護者、大会関係者の三者が携わった大会は成功裏のうちに幕を下ろした訳ですが、大会を通じて私が感じたのは、参加した多くの選手が非常に礼儀正しく明朗であり、健全育成を掲げて大会を続ける意義の本質を垣間見た思いでした。

また、審判団の充実と選手係と進行係の連携した進行に代表されるように、継続されてきた大会運営の完成度の高さは、大会運営関係者の絆の深さを感じる部分であり、今後も意義あるこの大会を成功させねばならないと感じさせた一日でした。



#### 《入賞者》

○小学1年生(男女混合)優勝 松原成到(極真桑島) 2位 三好あいり(如水会館) ○小学2年生(男女混合) 優勝 田坂瑛音(道真会館) 2位 松井瞭誠(極真戸田) ○小学3年生(男女混合) 優勝 桑野魁(極真桑島) 2位 小山響起(極真桑島)  
○小学4年男子 優勝 浦丈史(極真桑島) 2位 菊川慎(如水会館) 小学4年生女子 船越陽菜(拳剛会館) 2位 菊川真莉紗(極真戸田) ○小学5年男子 優勝 松井弥陸(極真戸田) 2位 市村楽生(如水会館) ○小学5年生女子 優勝 渡部はるあ(如水会館) 2位 山口麻亜矢(極真桑島) 小学6年男子 優勝 深谷海斗(極真桑島) 2位 渡部雄大(如水会館) ○小学6年女子 優勝 徳井琴子(如水会館) 2位 山内樹利亜(正道会館) ○中学生男子軽量級 優勝 原田直哉(極真桑島) ○中学生男子重量級 岡村航汰(極真戸田) その他戸田道場入賞者 小学1年生 4位 越智和 小学2年生 3位 山下駿 小学3年生 神原雅斗 小学4年生男子 山下凌 小学5年生男子 3位 遠山卓杜 4位 白鳥光希

## 修行の成果を試す昇段審査

多くの者が「いつか黒帯になりたい。」と考えて道場の門をくぐりながら、大半がその目的を達成せずに去って行った現実がある。本部（潮見）道場においても、14年の歴史の中で約200人の入門者がありながら、実際に黒帯を締めた者はちょうど10人しかいない。達成率5パーセント・・・このように入門して初段に至らない者の確立が高い武道は他には見当たらないのではなかろうか。

何より稽古の厳しさにあるであろうが、少年部は塾、習い事、部活の忙しさを理由に、一般部は仕事の忙しさ、家庭の事情を理由に黒帯手前で止めていった者の何と多いこと。

そんな中、4月19日日曜日に本部道場に県内各道場から集まった初段7人、二段3人の受審者10人は長年の弛まぬ修行を続けてきた空手家達であった。

全員、緊張の気持ちが隠せない表情で最初の筆記試験が終わると、基本、移動、型と休む間もなく進むが、熱い気迫で無難にやり遂げ、特に型はすばらしい出来であり、見学者から感嘆の声が上がった。

しかし、続く体力審査は実施種目が決まっているのに、足掛け立ち上がり、棒飛び、逆立ちは若者でさえできない者が目立ち、戸田師範の表情に厳しさが増してきた。

昼食休憩を挟んで、本日最も過酷な審査である連続組手が始まった。

最初に中央に歩み出た今治常盤道場責任者の神原敏行初段は、全日本戦士らしく積極的に攻撃を行い、後半こそ苦しそうな表情であったが、上段廻し蹴りを含む6つの技有りと1つの一本を奪うなど12勝2敗6引き分けという優秀な成績で20人連続組手を終えた。

次の櫻井隼斗1級は、強化選手に指定されている実力者で、近い間合いからの上段廻し蹴りを駆使し完遂。岡山優大1級は持病の腰痛を持ちながら、闘志むき出しの組手で完遂。直野天佑1級は戸田師範に構えを注意されながら最後にはきちんと修正して完遂。岡山拓末は細身の身体ながら、ステップを使って相手を翻弄して完遂。岡村航汰は中学生ながら闘志あふれる組手で、昨年の愛媛県大会に入賞した通りの実力を証明した。初段審査の最後は、本日の紅一点榎奈津美1級。型の出来で稽古を積んで来たことが見て取れたが、それ以上に対戦相手の手を抜かぬ攻撃を捌いて確実に反撃して完遂した。

壮年部の江戸英一1級は50歳間近でありながら、スタミナが切れず技を出し続けて完遂。還暦の楠田正志初段は、2年前にくも膜下出血で倒れた身体に鞭打ち、激しい組手を披露し心配顔の戸田師範や会場内の皆に大きな感動を与えた。

組手最後は、73歳という最高年齢の作道泰二初段が登場し、風邪気味の体調ながら大きく気合を発しながら技を出し続けてやり遂げ、剣道7段の気迫を見せた。

審査が終わった受審者は、やり遂げたという満足感で一杯の表情であった。

《審査結果》

◆初段 櫻井隼斗（新居浜川東）、直野天佑（新居浜川東）、榎奈津美（西条）、岡村航汰（今治常盤）、岡山優大（今治波方）、岡山拓末（今治波方）、江戸英一（県警空手部）

◆二段 神原敏行（今治常盤）、作道泰二（本部）、楠田正志（県警空手部）



# 心やさしき武人 志賀賢一選手

極真愛媛強豪列伝

平成26年の志賀賢一は「花開いた」という表現が当てはまるのではないだろうか。

6月の(社)極真会館全日本ウエイト制重量級8位入賞を皮切りに、8月の(社)極真会館香川県大会(桑島道場主催)で念願の優勝を勝ち取り、9月の戸田道場主催の第2回愛媛県大会では全日本ウエイト制チャンピオンの金(キム)選手に決勝で敗れたとはいえ準優勝、10月の全国レベルの拳武道全日本大会重量級では、またまた優勝、そして11月の(社)極真会館の全日本大会(無差別)では勝ち上がり、ついに7位入賞となり本年度のドイツで開催されるワールドカップの候補選手に選ばれたのであった。

そのどっしりとした重厚な組手は、チャンピオン製造道場、琉道会の長田師範から「もっと強くなる逸材である。」と太鼓判を押されおり、まだ伸びる可能性があることが期待されている。



日頃の志賀は、試合中の闘志溢れる姿と違い、礼儀正しく、子供たちにやさしい好青年であり、誰からも好かれている。

「今年度の全日本ウエイト制で入賞し、来年の世界大会を目指す。」と熱く語っている。

今後も極真愛媛の代表選手として皆をけん引してもらいたいものである。



## 道場紹介 西条壬生川道場の巻

今回は極真愛媛の強者、志賀賢一2段を擁する我ら西条壬生川道場を紹介します。

国立大学空手道部出身の槇龍次先生が長年指導しており、黒帯が8人という県内最多の人数を擁しています。その槇先生を支えている師範代の田中睦夫師範代が、厳しい目を光らせているため、道場生全員が気迫を表に出して稽古をしています。

その反面、誰が言い出すのか分かりませんが、しょっちゅう夜の懇親会を行い道場生の融和を図っているのも特徴のひとつです。



そして、昨年末には道場生の大西隆弘2段が、西条市内の小松町に道場を出し西条市内でのさらなる極真空手の普及を図っています。

また、槇先生の双子のお嬢さんに加え、今春から香川桑島道場から移籍した黒帯の佐久間葉月初段と愛媛大学極真空手部元主将の白石理沙3級が加わり、一般部女性が合わせて7人となり、これも県内最も女子部が充実した道場でもあるのです。

今後は、志賀選手が愛媛県大会の優勝をするために皆んなでサポートをして、彼に続く選手の育成が目標であり極真愛媛のために頑張ってもらいます。



## 道場責任者・師範代から一言

### ～道場責任者の先生ってどんな人～

#### ◆愛媛県戸田道場師範 戸田美智男 5段



仕事も空手も猪突猛進型で熱くなりすぎるのが欠点です。

本部（潮見）道場も道場生が増えてきており、一人ひとりの個性にあった指導を心掛けたいと思っています。

（高校時代から旅行の虫 海外の大会で審判をするのが夢）

#### ◆戸田道場師範代 田中睦夫 3段



私が空手道を学び始めて既に 50 年余になります。その間に多くの流派を学び、勝負の厳しさ、空手道の奥の深さを思い知らされ、生涯を通じ空手に生きる喜びを感じています。そして終の住処として極真会館戸田道場に籍を置かして頂いています。まさに「北辰、その所に居て 衆星 これにむかう」のと通りの道場であります。その道場において師範代を勤めさせて頂いていますが、人との関わりのなかで、人を見る目、そして己を見る目、あるいは人の心、己の心を読む力を培い、日々研鑽に努めたく思います。

（戸田道場内唯一の師範代 長年修行を続け齢 70 を優に越し道場生の範となっている方）

#### ◆愛媛県警極真空手部部长 橋本司 2段



戸田師範のバイタリティー溢れる行動力に刺激され、愛媛県警極真空手部部长を務めさせて頂いております。部員 20 名、戸田師範の御指導を受け、今後も精進して参ります。 押忍

（200 人を越す県警の修行者の中初二段を取得した猛者 交通事件捜査のスペシャリスト）

#### ◆西条壬生川道場責任者 榎龍次 3段



「生涯の修行を空手の道に通じ 極真の道を全うする」

極真空手歴が 30 年になりますが、戸田師範と田中師範代と比べるとまだまだです。

師範と師範代を見習い、道場生よりも稽古をして、背中で教える武道家になるようこれからも精進していきたいと思っています。

（組織設立直後に加盟 志賀選手の仕事と空手の師匠 1 男 2 女も共に修行中の空手一家）

#### ◆今治波方・桜井道場責任者 今西生栄次 3段



武という漢字は戈（ほこ）を止めると書きます。

武道とは決して闘争を肯定するものではなく、暴を防ぎ人との調和を目指すというのがその本意であります。単に技の上達や鍛錬のみならず、このような武道本来の精神を大切にしたいと考えます。

（その立ち振る舞いからは、まさしく極真精神を体現している武士のごとき姿が見て取れる）

◆新居浜川東・新居浜警察署道場責任者 青野大輔 2段



私達新居浜地区では「楽しくなければ空手じゃない」をモットーに厳しい稽古にも楽しみを、きつい中にも明るさを持てるように達成感ややりがいを感じられるよう日々稽古しています。  
(大洲教室初期の指導者 Tシャツや会員カード作成の責任者 明るさと危うさが魅力)

◆大洲警察署空手教室責任者 山岡忠徳 2段



大洲警察署空手教室は、少年部中心の教室であります。ご存知の方も多いと思いますが、戸田代表師範が最初に開設された道場です。私達は戸田道場の聖地と勝手に解釈しております。戸田師範が弊教室でご指導されていた頃は、会員も50~60名と活気に溢れておりました。また、稽古が週1回と他の道場に比べて少ないのに各大会で上位入賞者を多数輩出しておりました。教室開設時から20年経ちましたが、現在では会員数も25名と激減し、各大会でも上位入賞者も出ておりません。今後は会員と入賞者の増加を目指し、またしっかり挨拶ができるよう指導してまいります。

(最古参の指導者の一人 全日本大会や各県の大会で必ず審判をしてくれる頼りになる男)

◆今治常盤・鳥生道場責任者 神原敏行 2段



我々は、空手の技術を身につけてもらうと同時に、逆境にも負けない、自らの意思をきちんと伝えられる勇気のある人、人の痛みが分かる優しさの持てる人、礼儀正しく謙虚な気持ちを持てる人を目指すべく指導させていただいています。

また、相手を倒し勝つだけの空手ではなく、強さ、礼儀正しさ、孝行の精神を持った道場生を育てて行くことにより、社会貢献をしたいと思っています。

(指導力には定評があり本人も全日本大会に挑戦中 全日本ウエイト制の入賞が叶うか注目)

◆松山味酒道場責任者 寒作智美 2段



味酒道場を設立して2年になります。現在道場生は小学校低学年、かわいい園児中心のまだまだ白帯が多いフレッシュな道場です。道場生には空手を続けながら、文武両道、目標を持って稽古に励んでもらえるようにと考えています。まずは私自身が稽古を怠らず、見本となるよう稽古を続けていきたいと思っています。

(現在3歳と6歳の兄弟の子育てにも奮闘中 貴重な女子部の黒帯の一人)

◆西条小松道場責任者 大西隆弘 2段



昨年12月より小松武道館で小松道場の責任者をさせていただいております。

極真空手の基本、そして大山総裁の精神に則った空手を追及して参ります。

空手の修行で得たことが実生活で活かされるよう、稽古に励みます。

極真空手をすることによって勉強や仕事が一流になるような道場を目指します。

(福祉に携わる真面目な人物 道場内に生徒が溢れることを夢見る新米道場責任者)



◆松山空港通り道場責任者 杉野弘昭 2 段



松山空港通り道場は今年 1 月に開設させていただいたばかりの道場です。この道場は、愛媛県大会の大会会長をしていただいている、檜良太郎の家で有名な新日本建設（株）の井上社長のご厚意により、昨年完成したばかりの新社屋 3 F フロアを使用させていただいています。木のぬくもりと人とのぬくもりが、いっぱい染み込んだ道場です。こんな素晴らしい土壌を与えてくださった井上社長並びに戸田師範に感謝して、愛媛県戸田道場の未来を担う若者を一人でも多く輩出できるように、基本を大事にしてこれからも切磋琢磨して行きたいと思っています。まだまだ未熟者ではございますが、これからもご協力宜しくお願い致します。

（2 段を取って 20 年 前組織の師範代をしていた経歴がある極真を愛してやまない男）

◆愛媛県消防極真空手部部长 寒作典員 2 段



まだ、発足して間もないですが、「日頃の訓練で鍛えた体を空手に生かし、空手で培った精神力で災害と戦い市民を守る。」を信条に、戸田師範から学んだ事を、空手や市民に還元できるよう頑張っています。極真会館愛媛県戸田道場の安心・安全の象徴である愛媛県警極真空手部と双壁となれるよう努め、精進いたします。押忍。

（毎月中央卸売市場で演武をし道場生をゲット 松山市民の防火対策に尽力中）

## 第 20 回全日本少年少女空手道選手権大会出場選手の決意

6 月 20・21 日に大阪府立体育館で行われる第 20 回全日本少年少女空手道選手権大会に県大会を勝ち抜き、愛媛県戸田道場を代表して出場する 4 人の選手にその意気込みを聞きました。なお、全員戸田道場の強化選手として、合宿費免除、社団法人極真会主催大会の出場料免除、全日本大会交通費の援助などの支援を受けています。

◆小宮悠史（今治常盤道場所属 高校生重量の部出場）



僕は、昨年 8 月に行われた香川県大会と 9 月に行われた愛媛県大会で優勝し、全日本大会の出場権を得ることができました。全日本大会では、自分が得意としているパンチをうまく使いながら全力で戦いたいと思います。

◆櫻井隼斗（新居浜川東道場所属 高校生重量級の部出場）



初めに、この度は強化選手に指定して頂き、戸田師範、諸先生方有難うございました。愛媛の代表選手の一人として、戸田道場の名を汚さぬよう、日々精進し、後輩の育成に務め、極真愛媛の発展に微力ではございますが、力になれるよう頑張ります。

◆松井弥陸（みろく）（今治常盤道場所属

小学 6 年生男子の部出場）



常盤道場を引っ張っていけるように練習を積み重ねて強くなりたいです。得意技は左上段廻し蹴りです。

◆近藤さやの（本部道場所属 小学 6 年生女子の部出場）



私の今後の目標は、突きなどの自分の得意な技を出来るようにして、試合で使えるようになりたいと思います。また試合で、しっかりとステップを使えるようになり、技に生かしていきたいです。そして、6 月に出場するグラチャンでは自分の得意な技を確実に使い、恥じないように試合を行い勝つことに集中して優勝を狙いたいです。

## 1～5月のトピックスとお知らせ

### 寒さに負けず寒行稽古



1月11日（日）に昨年に引き続き、波方道場（今西生栄次先生）の主催で、寒行稽古を行いました。

来島大橋がよく見える風光明媚な波方町大角海岸に戸田師範を含む、西条、新居浜、松山、大洲の各道場から約50人が集まり、砂浜をランニングと、騎馬戦を行った後に全員で海に入り腰まで浸かり、正拳突きを繰り返しました。

比較的穏やかな気候とはいえ、寒風にさらされた参加者は海から上がると、たき火に群がり、波方道場のご父兄等が作って頂いた豚汁や甘酒を美味しく味わいました。

### 厳寒の滝浴び

2月1日（日）に恒例の滝浴び修行を、波方道場の主催で今治市菊間町にある霧合の滝で行いました。波方道場以外に本部道場からも参加し、総勢10人が厳寒の中、滝に打たれ今年1年の健康と空手の上達を祈願しました。



### 冬合宿

2月7日（土）、8日（日）の両日、国立大洲青少年交流の家において冬合宿を行い県内各道場から約100人が参加しました。今回の重点は「原点回帰」ということで、大山倍達総裁の作られた極真空手の技の継承として、戸田師範が山形県田畑道場や（社）極真会館のセミナーなどで習得した昔の総本部での稽古を中心に実施しました。

さらに、通常あまり重要視されていない呼吸法を、剛柔流を修行した戸田師範から「のがれの呼吸表と裏」「息吹」について時間をかけて指導を受けました。

二日目の午前中は施設の協力を得てウォークラリーを行い、3位までの入賞チームにはキックミットなどの賞品が贈られ、厳しい中にも楽しい合宿を行いました。



## 分解型実施の帯研



3月29日（日）に本部道場において、緑帯以上を対象に帯研を実施し約30人が参加しました。

今回は平安の型の主だった技を戸田師範がひとつひとつ丁寧に指導を行い、2人が組んで攻防を行う一本組手を繰り返し実施し理解を深めました。普段、型の意味を知らずに稽古をしており、今回の帯研に参加して初めて意味を知った道場生も多く意義深かったという声をたくさん聞くことができました。呼吸法など古来から伝わる空手道の色々な技を今後も修行することとしました。

## 会員カード制度の開始

（社）極真会館戸田道場は設立4年目を迎え、新たに組織に加盟した道場も増えるなど会員数も大幅に増加し、本部事務局では会員の皆さまを把握することが困難な状況になってまいりました。

そこで、5月中に入門誓約書を提出していない会員に「会員登録カード」を、また全ての会員に顔写真を提出していただき会員の皆さんを会員登録していくシステムを構築することになりました。

さらに、道場生の皆様には顔写真付きの会員カードを持っていただき、極真会館戸田道場の道場生である自覚を持っていただくと共に、今後は昇級・昇段審査、合宿、戸田道場主催大会出場等の申し込み書に会員カードに付いている会員番号を記載していただくようになります。ご協力を宜しくお願い致します。

## 全日本フルコンタクト空手道選手権大会の開催

5月23日（土）、24日（日）に大阪府立体育館において、第2回全日本フルコンタクト空手道選手権大会が開催され、志賀選手が強い意欲でこの大会に出場したのですが、武運拙く初戦で延長判定負けしてしまいました。

我々極真会館戸田道場は、加盟している（社）極真会館の指導もあり、一昨年、新極真会を中心とするJFKO（全日本フルコンタクト連盟）を設立した際に加盟しました。

この組織は、東京オリンピックにノンコンタクトと合わせてフルコンタクト空手の参加を目的に創設されたもので、現在、芦原会館、魚本流、白蓮会館などの巨大組織を含め実に267の会派・道場が加盟をしており日本最大の空手組織に育っています。

大会は1日目の予選を含め、観客が満員となりすばらしい盛り上がりを見せました。

今回は（社）極真会館からも審判を出し各会派が一体となり運営を行いました。

新極真会以外の他流派と16、7歳の高校生が一般に混じって活躍し入賞したことが印象的であり、近い将来戸田道場からも出場して活躍して欲しいと願われます。



## 第3回愛媛県大会愛媛武道館で開催決定

「第3回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会」が9月23日（秋分の日）に愛媛県武道館主道場で開催することが決定しました。

今回も、あいテレビ（TBS系列）での放映が決定しており、昨年以上に全国から多くの選手が参戦することが予想され、迎え撃つ極真愛媛勢の活躍が期待されます。



## 2015年後期 行事予定一覧表

戸田道場行事	他県他道場行事
<b>6月</b> 7日：少年部合同稽古（常盤道場） 14日：全日本少年少女大会・全日本ウエイト制壮行会 28日：昇級審査（坊ちゃん球場スポーツフロア）	14日：瀬戸内ジュニア空手道リーグ戦【秋山道場】 20日：第20回全日本少年少女大会【極真会館】 21日：第31回全日本ウエイト制空手道選手権大会【極真会館】 21日：第10回オープントーナメント新人戦拳武道大会【拳武道会館】
<b>7月</b> 25～26日：夏合宿（大洲青少年交流の家）	
<b>8月</b>	4日：チャンピオンセミナー【極真会館琉道會】 12日：第18回オープントーナメント西日本拳法道選手権大会【拳剛会館】 20日：第4回スピードサムライ杯究道空手道選手権大会【究道会館】 23日：松山白鷺杯ライオンズカップ少年少女大会【如水会館】
<b>9月</b> 23日：第3回オープントーナメント愛媛県空手道選手権 （愛媛県武道館 主道場）	
<b>10月</b>	
<b>11月</b>	8日：第47回全日本空手道選手権大会【極真会館】
<b>12月</b>	

※（ ）開催場所【 】主催者名